

ここに至り国内海外に温室効果ガスによる地球気候変動説拒絶勢力が未だ根強くある。だが**最高温赤道域**と**最低温北極域**の熱交換に伴う**北極振動**は今後、一層激動するだろう。その結果、誰もが生活環境激変、寒冷-温暖の激変、南方風力の荒れを見ることになるだろう。大自然の中で生きる危機(食糧飲料水の生存資源)飢渴を見るだろう。現状は分岐点!!!

[1]:文明化進行は同時に逆の無知化進行(典型が経済と気候変動科学、伴に命に関わる!).

産業革命とその世界伝播は全球物質化文明化と高学歴化をもたらした。だが本当に人類は賢くなったか?、もし現代文明が破滅進行なれば、人類は逆に愚くなったのが論理。

(1)千兆円を超えた京円規模の史上最大の米国負債とその世界規模破綻:

戦後世界を要約すれば米主導物質文明が頂点に達し、それが世界波及、米が技術と市場を世界供給で世界経済規模も史上最大、その頂点落下こそが米国等の負債世界規模破綻。

(2)米主導戦後文明は同時に化石燃料消費史上最大化、その付けが温室効果の地球自然破壊。

我々生命は食料-水を典型に自然資源に直結依存、命の源と社会基盤を破壊するのだ。

(3)この悪化状況進行は少数世界支配者は既に承知、だが大多数地球市民は知らされない。

[2]:現状実態は瀕死だがまだ機会はある。その鍵は甚大危機の共同感知だけ!!

自然資源に直結の農業-漁業者は自然変動に敏感、生産-所得に直結だからだ。だが現代世界での従事者は少数化、大多数が物質文明化=自然非直結都市生活化、野生感覚の欠損化。ならば学識能力向上かと言えば逆、自然科学と経済歴史には巨大詐欺が徘徊してるのだ。

(1)真理(物質現象実現)は過去にも未来にも唯一<議論の詰めを抜かず=嘘詐欺**矛盾**の起源>。

真理は証明可能<ゲーデル完全性定理>, 同不完全性定理に関し科学無力を言うは誤り。

(2)非物質界<物理真空>では(1)の逆が発生、この矛盾世界(=**あの世**)は全知全能世界!

超常現象、宗教予言には論理-物理学的根拠がある<宗教 vs **既成(規制)現代科学**>。

(3)原子分子時間現象は因果決定論にない確率現象化、その起源は無限大とその逆数の実数 0

*素粒子の体積は実数 0(実験合致の世界公認標準理論)、実数 0 の無にして無でない矛盾性

<http://www.777true.net/slavejapan.pdf>

(4)初期値条件の微小差異が将来予測を大変動させる **カオス現象(実現確率 0 確率標本過程)**。

***気象気候予測**で主役になる流体方程式の予測解はカオス的で有名、その起源は確率現象であるミクロ糸状分子衝突機構に由来する流体の粘り(**粘性係数**)に由来。実際の液体水は H₂O の玉でなく、ブドウ房連鎖状態に近い(生命基礎の水は不思議が多い)。

だが時間空間尺度を巨視化変換すると粘性係数は小影響化、長期予測が原理上、可能。

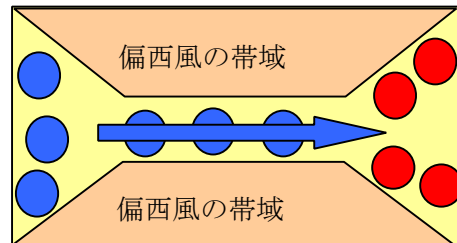
*不幸な事だが、流体カオスは方程式非線形性に由来との大誤解が過去現在と大流布、

(5)年間平均値を変数に取ればカオス性に由来する季節性不規則性が緩和できる。全球空間平均化した 0 次元模型は更に空間不規則性緩和がある<気候変動未来予測の高信頼化>。

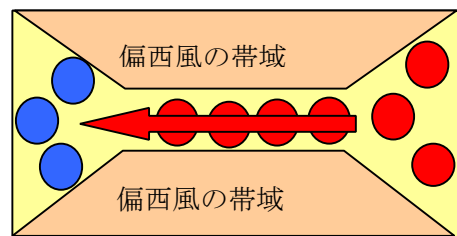
[3]: **北極振動**、**最高温赤道域**と**最低温北極域**の**熱交換**の一層の進行。

筆者自身も昨年末から今春(?)までの気象異常に鑑みて、了解できた一つに北極振動がある。これは北極圏観測に行ける専門家ならずとも、日本の今居る場所で判る現象。自分自身で確認できる観測現象なるが故に取り上げてみた。然るに日本から北極は一見遠い場所に見えるが、さにあらず、北海道先端に日本列島(沖縄を含む)をもう一本足した長さで到達。北極圏は意外にも日本に近い距離にある事に留意。

- (1)相互に人が対面で行き会う狭い通路、
もし一時に一人分しか抜けられない通路としたら
ば流れはある時は北向き流れ、
ある時は南向き流れになるだろう(右図)。



- (2)もし北からの流れが一時的に途切れると、
流れは逆転して、詰まっていた熱い南成分が
一気に北向き流れになるだろう(左図)。



- (3)以上の(1)(2)の現象は南北方向一次元の局所では
振動現象になってる。狭い通路とは本来は
つながってる通路左右壁を圧力差で押し切る事に由来してる。以下[4]で解説されるが
つながってる左右壁とは北極点を中心に反時計回転の**環状偏西風**の帯域の事。この帯を突
っ切るのだから環状偏西風は蛇行する(北極振動)。

- (4)現実観測で注目すべきは北からの寒冷流はのろく、雨雲と日照不足を伴いしかも長期に
つづく。この結果**農作物生産の脆弱性**が明るみ、台所家計は一揆上昇。18世紀アイスラ
ンド噴火塵灰は欧州全域を遅い、農作物壊滅と飢饉が後にフランス革命誘発と言われる。

- (5)逆に南からの温暖流れは(**異常強風**、南圧力が強)に強く雨雲随伴、期間は短期である。

- (6)流れ総量は{速度 x 方向持続時間}だから、長期時間では同量平衡が成立するのだろう。

- (a)流体现象では流れ出た後には、必ず埋め合わせの流入が伴う。どこも空にならないの
が流体。また押し込みがあるから、押し出されるがあるとみなす事もできる<圧力差>。

- (b)流れ速度が異なる流層間では相互逆方向に<摩擦引きずり力>が働く(渦運動化の原因)。
この力は同時に**流体軌道の混合混沌化(カオス化)**であり、流体運動長期予測を困難化。

- (c)流体単位体積には重力と地球自転に伴う見かけ慣性力の**コリオリ力**が働く<体積力>。

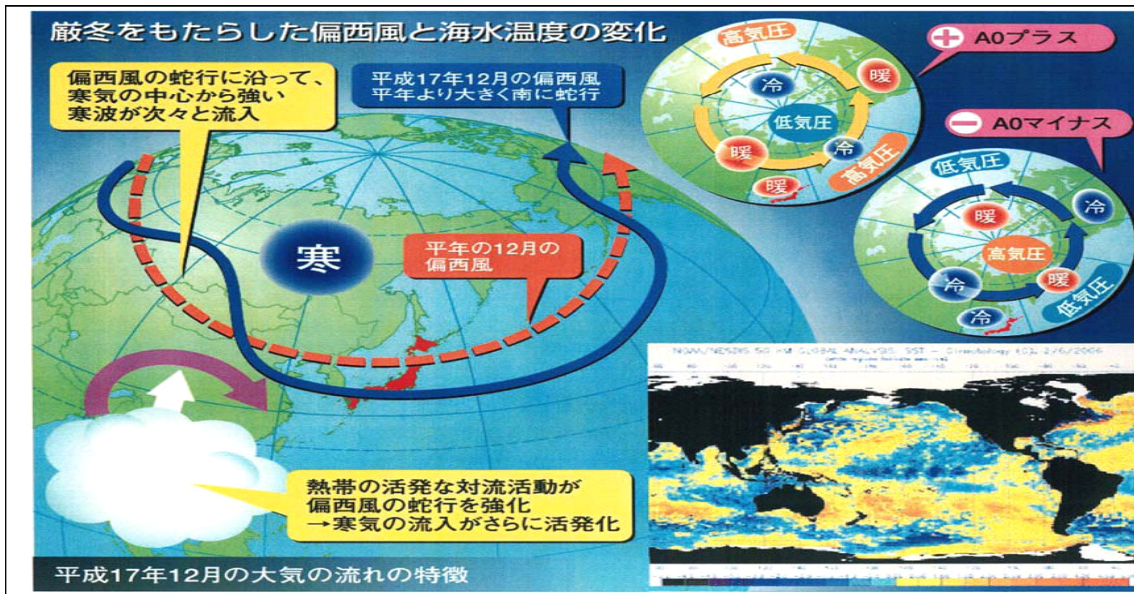
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B3%E3%83%AA%E3%82%AA%E3%83%AA%E3%81%AE%E5%8A%9B>

北半球の南風(台風等)は必ず反時計周りの渦になる理由。

- (d)詳細だが、風船の口を開放すれば<噴出し力>が発生する。これは風船を推進。

- (7)**気象**変動は大気運動が関心の中心だが、長期**気候**変動の大局理解は宇宙出入熱量の
非均衡分が入射する赤道域から極圏に向かう**海洋熱流**、地球が溜め込む熱容量は圧倒的
に海洋(年間変動での等価水深 1000m)、大気は 1/1000 程度で無視できる量でしかない。

[4]:参考サイト/日本の異常気象と北極振動の関係, 筑波大学計算科学研究センター-田中博
<http://air.geo.tsukuba.ac.jp/~tanaka/papers/paper220.pdf>



地球自転(24時間で定緯度円周を一周できるのだから猛速度が想像できる)に伴う北極点を中心にする偏西風環{(orange(+), blue(-))}がある。重い大気を地球回転は全面引きずりできないから偏西風発生が自然に了解されるだろう。かく地球自転が気候運動基礎にある。この時、円環内部と外部での気圧差に注目すればの以下P(+), N(-)の相反2状態がある。

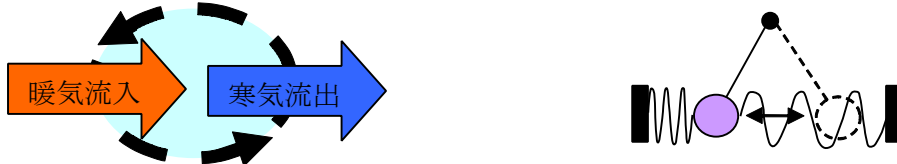
P : 低気圧 orange(+, 中心は冷温) ← 低気圧の北極に向かう暖流が優性になる。

南からの暖流が北極圏低温で冷却低温化で低気圧化する。外押し力は弱い

N : 高気圧 blue(-, 中心は暖温) → 高気圧北極から押しだされる寒流が優性になる。

高気圧暖流大気流れ込みで、かつ暖温だから高気圧維持、周囲寒気団を外へ押し、

①流体系で注意せねばならない事はどこかで湧き出し流れがあれば、流れ出た場所が空になってしまうので、その場所を補う別箇所からの流入が必ず伴う事である。



入出に随時伴い、円環偏西風の環は乱れ(蛇行)る事になる(北極振動)。振動とは力学でフリコの事だが流れには慣性力が伴う、それと圧力バネポテンシャルとでエネ交換する。だが本件の北極振動強化は熱的に南から北への熱流の一方向的な流れ増大傾向が起因。

②北極圏大規模熱容量を支配するのは大熱容量の北極圏出入の**大海洋流**、**大気**ではない。

太平洋側 Bering 海峡通過組と、大西洋 Green land 沖通過組の2種が支配。

2009, 2010年太平洋の**暖海流団**は南米沖から中部太平洋へ移動、より北極への影響大化。

2010年3,4月期の気温寒暖の頻繁交代は上記の北極振動が大きく頻発、日本では寒気に捕らわれ、逆温暖化ではの疑いも。だがその根源は温室効果ガス濃度上昇に付随する大気からの逆放射熱赤道圏流入での海洋熱増大流入、2009年度も全球温度上昇傾向は変わらない。

Global Temperatures Push March 2010 to Hottest March on Record

<http://www.sciencedaily.com/releases/2010/04/100420225712.Htm>

Protected Forest Areas May Be Critical Strategy for Slowing Climate Change

<http://www.sciencedaily.com/releases/2010/03/100316083719.htm>

炭素吸収の森林政策の重要性.

[5]:雪だるまの始まりは小さい、だが最後には,,,

簡易了解を目指したが出来は良くない。学生諸君等は更に学んで大人に講義してもらいたい。もし真理ならば、誰も認識は一つに収斂するだろう。始めは小勢力でも、伝播方法次第では時間経過と共に雪だるまは膨張するだろう。この報告は一つの布石を目指して。率直に言えば、現状を支配してるのは超不都合を承知でも、困難重大さの前に沈黙する無能の支配である。あえて無能と呼ぶ。過去栄光慣性を捨てる事が出来ない既成権力の己の**超大失敗隠蔽**のいこじな保守主義でもある。北極振動は偏西風の壁を突き破る現象だが、この問題の保守主義の壁の**世界突破**がないと北極振動は一層過激化するだろう。